

「政府統一Webサイト構築に向けたサービス基盤及びデザインシステム等の実証に関する調査業務」に係る入札説明会での質疑応答について

○開催日時：令和3年8月12日（木）15:00～16:00

○開催形式：オンライン会議

No.	資料	分類	質疑	回答
1	ー	引継ぎ	実際の業務に当たり、先行調査事業から引継ぎや情報提供があると思うが、提案段階でも何らかの情報提供や情報共有があるか。	入札説明書（26頁）に記載のとおり、8月20日（金）まで資料閲覧の期間を設けている。ご希望があれば、先行調査事業の中で作成した成果物を紙ベースでご覧いただくことが可能である。
2	説明会資料10頁	クラウド基盤、CMS	クラウド基盤、CMSについて受注者側で見積りと提案が必要とのことであるが、提案内容と実際の業務に差異が生じた場合、調達仕様書に記載の12月末までという契約期間の後ろ倒しも含めスケジュールの調整が発生し得るという理解で良いか。	可能性として無くはないという状況であるが、フィージビリティ含め、受注者とできる範囲で調整させていただきたいというスタンスである。
3	説明会資料9頁	引継ぎ	先行調査事業の受注者からの引継ぎに際して、今回の調査事業の受注者側で新たに作成するものは発生しないとのことであったが、インフラ部分に関してはどうなるか。契約を移管するイメージか。	（評価用Webサイトは）いわゆるノーコードツールのSTUDIOを利用しており、インフラ部分とCMS部分、ページを作成するための開発ツールがワンパッケージになっている。STUDIOと契約を締結すれば、月額の有償アカウントを作成できる。現在、デジタル庁（準備中）Webサイト用の支払いオーナー権限が先行調査事業の受注者になっているため、今回の調査事業の受注者にSTUDIOプロジェクトのライセンスを契約いただいた後、プロジェクトに紐づくオーナー権限のアカウントを切り替える形で対応する。結果的に、インフラとコンテンツを含め権限を一体で移管する形になるので、新たにインフラを構築したりプロジェクトを作り直したりする作業は発生しない。
4	仕様書11、12頁	コミュニティマネジメント	「国民と行政機関との共創におけるコミュニティマネジメントに関する実証」について、コミュニティプラットフォームと評価用Webサイトは全く別物で、それらをリンクさせるという意味だと思っているが、コミュニティプラットフォームは新たに作るのではなく、既にあるものに対して作業を行うイメージか。	ご認識のとおり、コミュニティプラットフォームと評価用Webサイトは別のプラットフォームを想定している。評価用Webサイトからコミュニティプラットフォームへのリンクを設けることで導線を確認することを仕様書12頁で申し上げている。コミュニティマネジメントの実証を行う上で知見や経験、実際のプラットフォーム等を運営している方々について我々もリサーチしているところ。その方々が持っているプラットフォームを利用しながら、評価用Webサイトとは別にコミュニティマネジメントの運用に係る実証を行う想定である。受注者と我々で協議の上、タグを組む組織等を決めたい。
5	説明会資料10頁	クラウド基盤、CMS	クラウド基盤についても受注者が調達するということであるが、そこで発生した利用料を受注者が発注したベンダーから請求するという形をとって問題ないか。	クラウドのベンダーへは今回の調査事業の受注者から発注いただき、検証の中でかかったインフラ費用についても負担いただくことを想定している。検証の中でどのぐらいインフラとしてリソースを使うかについては、提案段階である程度見積りいただく形になる。

6	説明会資料10頁	クラウド基盤、CMS	クラウド基盤について、例えば従量課金の場合、（契約額を）超えた部分の請求は可能か。	単純に従量課金でご請求いただくことは難しい。契約後、実際に利用するクラウド基盤を調整する中で、当初提案いただいた内容から大きく相違が生じた場合は、契約内容の変更等も含めて調整させていただきたい。
7	説明会資料10頁	クラウド基盤、CMS	ヘッドレスCMSかつオープンソースという縛りがあるが、オープンソースでなければ採用不可ということか。ヘッドレスCMSの機能を有していれば良いのか。	原則としてヘッドレスCMSかつオープンソースのものを検討いただきたい。
8	説明会資料10頁	クラウド基盤、CMS	いわゆるパーツやデザイン、画像周りについても、全てAPIでコールできるように、CMSの中でできるようにする必要があるということか。ヘッドレスCMSにこだわる理由が聞ければと思う。	画像等については、CMSに入れるのか、別のストレージに入れるのかというところがあるかと思う。ヘッドレスCMSだけだと単なるAPIであるので、実際にビューワの部分を作る必要があるという中で、サーバーサイドでVue.js等の技術を使っていわゆるJAMスタックのような形で静的ページを生成して、当該ページをウェブサーバーを通じて公開するというようなアーキテクチャを想定している。 他府省庁のウェブサイトは、コンテンツ量が非常に多く、求められるコンテンツのバリエーションや運用等の面でも、新しい技術を適用することが難しい部分があると思っている。そこで、コンテンツ量がさほど多くないデジタル庁ウェブサイト等のフロントページでの実証を通じて、新たな技術がどこまで適応可能か、どのような課題が生じるかを検証し、最終的に他の府省庁のウェブサイトも同じようなアーキテクチャに移行が可能であるかについても検証していきたいという思いで、従来型のCMSでないものを採用している。
9	説明会資料10頁	クラウド基盤、CMS	現状、国内である程度のサポートまで期待できるメジャーなヘッドレスCMSは存在しないという認識であるが、それを踏まえてもなお各府省庁でも適用できるかチャレンジしたいという思いだと理解しているが、そのような受け取り方で良いか。	ご認識のとおり。
10	説明会資料10頁 仕様書13頁	クラウド基盤、CMS	クラウド基盤のサービス利用の料金について、評価用Webサイト及び新CMSで作られたWebサイトのアウトバウンド、インバウンドでお金が発生するようなサービスを利用する場合、どのぐらいのデータ量をみておけばよいかという情報をいただきたい。また、STUDIOはそのまま引き継ぐことが可能とのことであったが、現状支払っている月額費用を据え置いて見積りに算入して良いのであれば、その金額を知りたい。	想定しているアクセス数は、仕様書に記載のとおり1日50万リクエストである。実際、評価用Webサイトのアクセス数は、1日10万リクエストを下回るぐらいであるが、今後アクセス数も増えるだろうとの想定で記載している。コンテンツのストレージの量については、現時点では精緻な見積もりができておらずお答えが難しい。また、STUDIOの利用料については、有料アカウントの月額という形で固定の金額が決まっているため確認いただきたい。現行の契約はSTUDIO PROであり、月額払いの場合は、月3,280円と公式Webサイトでは確認できる。STUDIOについては、いわゆるサーバーリソースの量に応じて料金が変わるタイプではなく、月払いの固定額となっているため、その点ご認識いただければ。
11	説明会資料10頁 仕様書13頁	クラウド基盤、CMS	1日50万リクエストというのは、新評価用Webサイトで新たに作成した2つのサイトの合計と考えて良いか。	ご認識のとおり。